



ワークとプライベートの隣接した空間の是非は？

～学びの家～



大分工業
松田 颯佑

設計主旨

新型コロナウイルス感染症による「新しい生活様式」は、われわれの生活に様々な影響を及ぼしている。不要不急の外出自粛はもとより、学校生活から、働き方にいたるまで、その変化はこの2年間で大きく変わった。生涯現役で仕事や地域社会との関りを持ってい

きながら生活できる住居兼職場

で、子どもたちの「学び」ということにフィーチャーし今回のプランを考えた。

私の考える住宅兼サロンは、大分市神崎の傾斜地で森林の多い場所ですが、この立地の高低差をうまく活用し、夫婦それぞれのサロンスペースと、プライベートスペースを分け、その間には、和室で子どもたちの勉強スペース（寺子屋）の様な空間を設け「家に上がる前に宿題をやり上げる」のような家族のルールも聞こえてきそうである。また来訪者の対応にも使用できるフレキシビリティのある空間として、使用されることでしょう。

共働きではあるが子どもたちが家に帰れば、家族の気配を感じられる安心感・おうち時間の増す中でも仕事と子育てを両立できる住宅を設計しました。

